



ドクター板東の メデイカルリサーチ Vol.81

～各国で 音色が違う 共感覚～

<http://pianomed-mr.jp/>

あなたは音や音楽を聞く
と、どんなイメージが心に
広がるだろうか？ 目を閉
じて、子供の頃の思い出
や映画のシーンが思い出さ
れ、極彩色の世界に包まれ
る人もいるだろう。

実は、音を聴くと、色を
感じたり、特定の景色が見
えたりする人が少なからず
存在する。聴覚を刺激され
ると、同時に視覚も刺激さ
れるためだ。このような感
性は「共感覚」と呼ばれ研
究も行われてきた。

今回は、共感覚の話題に
ついて触れてみたい。

音の色が見えるか？

音色（ねいろ）とは「音
の色」を表す。あなたは音
の色を感じられるだろうか？

実は、音をきくと、色彩
や光、輝き、表面の凹凸、
陰など、視覚的特徴を感じ
る人がいる。

本来、人間には五感が備
わっている。つまり、①耳：
聴覚、②目：視覚、③鼻：
嗅覚、④舌：味覚、⑤指先：
触覚である（図1、2）。

そして、六つ目は第六感



図1

として知られるもので、親
子や恋人同士で感じる、予
感とかテレパシーのような
ものだ。そういうえば、以前
には映画「シックスセンス」
もあった。The sixth sense
と日本語と同じである。

以上の感覚は重複するこ
とが知られ「共感覚」と呼
ばれてきた。たとえば、

①文字を読んだり言葉を
聞いたりすると、心の中に
ある特定の色が見える

②音楽を聴くと、音程や
音色によって特徴あるイメ
ージが見える

③料理を味わうと、以前
の音楽が聞こえたり記憶が
甦ったりする

これらの現象は、しばし
ば芸術家にみられやすいと
いう。ある特定の形をみる

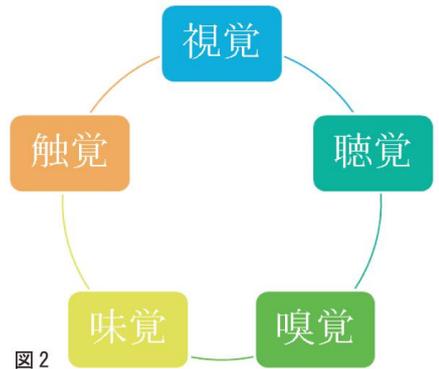
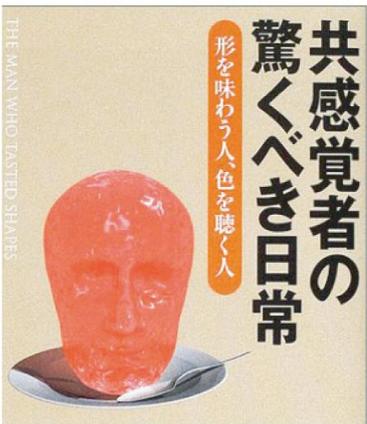


図2

と味覚が刺激され、特定の
味を感じる人も（図3）。
特定に色彩で音楽が聞こえ
てきたり、逆に、ある音楽
からある色彩が沸き上がっ
てくる人も。

ロシアなどでみられる
のが、いわゆる超能力を有
する若年女性だ。目隠しを
した上で、指先で文字を触
れると文字を読むことができ
たりする。これはESPの
一種で、Extra-Sensory-

図3



絶対音階

絶対音階とは、英語で
perfect pitchと呼ぶ。何
かの音を聴くと、その振動
数がわかることだ（図4）。
世の中には凄い能力を有す
る音楽家が存在する。僅か
の振動数の差を感じ過ぎて
気分が悪くなったり、コッ
プが落ちて割れたときに和
音を指摘したり。

筆者も絶対音階が備わっ
ているが、ピアノの鍵盤が
わかる程度でよかった。あ
まりに敏感過ぎると、日常
生活に支障が出るものが十
分に考えられる。

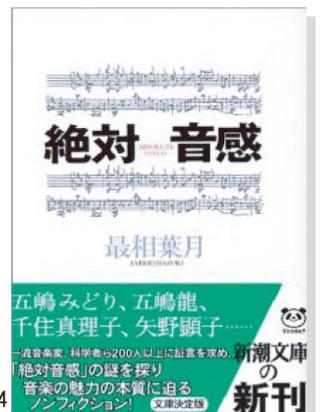


図4

音楽で感じること

絶対音階を持つ人では同じ曲を聴いても、その音階や和音によって曲調が大きく変わり、特定の色彩や色調を感じることが知られている。

リサーチすると、共感覚と色について、興味深い報告を発見した。著名な作曲家リムスキー・コルサコフとスクリャーピンは共感覚を有していた(表1)。そして、バラ色とかエメラルド色と

調性	調性	リムスキー・コルサコフ	スクリャーピン	虹の7色に対応例
	ハ長調	白色	赤色	赤色
b	ヘ長調	緑色	青色	緑色
#	ト長調	豊かな金色	オレンジ色	青色
##	ニ長調	黄色	黄色	橙色
###	イ長調	バラ色	緑色	藍色
####	ホ長調	エメラルド色	—	黄色
#####	ロ長調	—	—	紫色

表2 音楽の調性と共感覚

著者によるイメージ	
へ長調	b
変ロ長調	bb
変ホ長調	bbb
ハ短調	bbbb
変イ長調	bbbbb
ト長調	#
ニ長調	##

いう表現は、日本にはなく欧米での感性であろう。または虹の7色に対応する調性もあるようだ。

また、著者の場合の感覚を表2に示した。おおむね、西洋音楽(ピアノ)の経験者はある程度類似したパターンがみられるという。

おそらく、代表的な作曲家の作品に触れていくうちに、音・光・色の共通感覚を音符に込めた大作作曲家の感性が、受け継がれてきたのかもしれない。

次に、楽器の音色と色彩との関係については、①フルート：白色、水色、②オーボエ：茶色、灰色、黄色、③トランペット：黄色、朱色、赤色、④チューバ：黒

色、茶色、濃紺などとされる。読者は、どのような色を感じるだろうか？

言葉と共感覚

実は「共感覚」は言語にも関わる。各国で言語が異なっても、母音の発音に共通点がみられるのだ。

天才詩人として知られるフランスのランボー(Rimbaud)は、現実に対する反逆の視点から独自の詩風を確立した。同性愛や骨肉腫で足の切断など様々なエピソードもある。代表作には、傑作として名高い「母音」(1871年)があり、

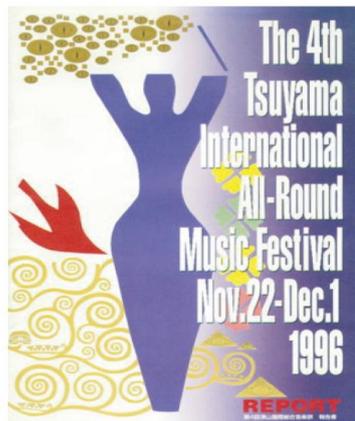


表2

アエイオウの発音で、色彩が目前に浮かんだという。「Aは黒、Eは白、Iは赤、Oは青、Uは緑」であり、「母音よ、君たちの隠れた誕生を語ろう」と彼は呼びかけた。具体的なイメージとしては、Eは靄とテントの純白さ、Iは緋色、陶酔の美しい唇の笑い、Uは周期、海、平和、学究の広い額：であると。

一方、共感覚に纏わる作品として、「母音頌〜津山慕音歌〜」(作詞：入沢康夫、作曲：諸井誠、1996)を発見。その第1楽章の「序唱」を紹介したい。

- ・アは光 鮮やかな光
 - ・エは時間 永遠の微笑み
 - ・イは人 今の人古の人
 - ・オは夢 夢のオアシス
 - ・ウは故郷
- また、我々の音楽仲間か



からお洒落なメッセージを頂いた。つまり、「アは鮮やかな緑、青空、愛する心。エは笑顔、心からの笑顔。イはいとおしむ心、慈しむ心。オは音楽、音の泉。ウは生まれること、生まれてきたこと」という。

このように、私たちの心を文化的に暖かく育てていきたいものである。

共感覚と文化

六つ目は第六感。太古の昔から、日本人は豊かな自然と共に生き、人の和を大切にしてきた。独自の生活習慣や人生が統合された状況から、このような共感覚が生まれてきたとも考えられる。

日本語に加えて、英語やフランス語を聞き、諸外国の音楽や文化、慣習に触れることは大切だ。これらの経験により、各国の共感覚を理解し心の絆を強めていけるかもしれない。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)